

## ( 9 ) 電子機械工業

15 / 14 16 / 15 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%  
: 天気図マーク; 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

### 1 . 企業経営動向

#### (1)需要

平成 1 3 年初頭からの世界的 I T 不況により大幅に需要が減少。その後、生産調整の進展により、半導体、液晶、電子部品が回復。平成 1 5 年度は、デジタル家電やカメラ付き携帯電話などの需要が伸び、パソコンも法人を中心に買い換え需要が発生し、これらのキーデバイスである半導体やディスプレイも好調。1 6 年度も前半は 1 5 年度からの好況が継続すると見られるが、年度後半からは、これらの動きが落ち着く可能性もあり、先行きは不透明。

#### (2)生産・設備稼働

平成 1 3 年以降、対前年度比マイナス傾向が続いていたが、半導体、液晶、については平成 1 4 年度第 1 四半期後半より、コンピュータについては 1 5 年度第 3 四半期より、生産が対前年比プラスに転じている。平成 1 6 年度もデジタル家電等の好調により、半導体や液晶を中心に、生産は好調であると見られるが、1 6 年度後半には、世界的な設備投資の増加による生産能力向上により、供給過剰に陥る恐れもあり、今後の先行きは必ずしも楽観できない。

#### (3)企業収益

各社 I T 不況で収益が悪化して以来、構造改革に取り組む。平成 1 5 年度は、デジタル家電の好調により半導体やディスプレイが好調で、また、構造改革の成果もあり、収益増。平成 1 6 年は引き続きデジタル家電等が好調に推移し、黒字の拡大を見込む。

#### (4)財務

各社、事業構造改革の進展による固定費用の削減など財務体質の改善を推進した。キャッシュフローは増大し、有利子負債残高も減少の傾向をみせている。

## 2．設備投資動向

### (1)これまでの設備投資の推移

IT不況により、平成13年度は対前年度比 42.7%、平成14年度も対前年度比 26.7%と大幅に減少した。平成15年度はデジタル家電やカメラ付き携帯電話などの需要増を背景に、半導体や液晶を中心に対前年度比23.1%の設備投資増。

### (2)平成16年度の設備投資計画

平成16年度についても引き続き、デジタル家電等の需要増を背景に、半導体やディスプレイを中心に16.7%の設備投資増加を見込む。構成比を見ると、生産能力増強、研究開発にウェイトが置かれており、将来の競争力強化へ向けた投資が継続している。

## 3．長期資金調達・運用動向

### (1)長期資金運用動向

平成15年度、平成16年度計画と、設備投資資金としての運用が主となる見込み。

### (2)長期資金調達動向

平成15年度は、株式及び内部資金による調達を行う一方、借入金を返済。平成16年度計画では、主に内部資金によることとなる見込み。

(グラフ1：設備投資の前年比の推移)

